

- 問1 鎌倉時代後半、二度にわたる元軍の侵攻（元寇）を退けた後、幕府の支配体制は揺らぎ始めました。戦いには勝利したものの、幕府に仕える「御家人」の生活が困窮し、不満が高まった理由として最も適切な説明を選びなさい。（2018年 秋田県公立入試 類似）
- 幕府が御家人よりも足輕を優遇する軍制改革を行ったため、伝統的な武士の特権が失われた。
 - 元軍に勝利したことで宋との貿易が途絶え、物資が不足して急激なインフレーションが起きた。
 - 元軍との戦いにおいて、幕府が御家人に領地の半分を返還させる「徳政令」を強制的に出した。
 - 防衛のための戦いであったため、幕府は恩賞として御家人に分け与える新たな土地を確保できなかった。
- 問2 鎌倉時代後半に起きた「元寇」をめぐる歴史的背景とその影響について述べた文として、正しいものはどれですか。（2018年 奈良県公立入試 類似）
- 元寇による防衛指揮を通じて執権の権力は一時的に衰退し、足利尊氏による新しい武家政治が始まる直接のきっかけとなった。
 - 元軍の再来襲に備えて築かれた石の防壁は、九州沿岸だけでなく、鎌倉の海岸線一帯にも同様の規模で築かれた。
 - 北条時宗は元軍を退けた後、恩賞として博多湾沿いの石の防壁周辺の土地を、手柄を立てた御家人たちに分け与えた。
 - 八代執権の北条時宗は、フビライ・ハンからの臣下になる要求を拒否し、九州北部の防備を固めて元軍を迎え撃った。
- 問3 鎌倉時代後半、元寇（蒙古襲来）による軍役の負担や分割相続の影響で、多くの御家人が生活に困窮しました。幕府がこうした御家人を救済するために、彼らが売却・譲渡した領地を無償で取り戻させることを命じた法令を何といいますか。（2018年 奈良県公立入試 類似）
- 武家諸法度
 - 公事方御定書
 - 徳政令
 - 御成敗式目
- 問4 1221年に起きた承久の乱の結果、鎌倉幕府の支配体制はどのように変化したか、その説明として最も適切なものを選びなさい。（2021年 静岡県公立入試 類似）
- 初めて全国に守護と地頭を配置し、軍事・警察権と年貢徴収権を掌握した。
 - 京都に六波羅探題を設置して朝廷の監視を強め、幕府の支配が全国に及ぶようになった。
 - 源頼朝が征夷大將軍に任命され、名実ともに武家政権が誕生した。
 - 御成敗式目を制定し、西国の地頭たちに幕府独自の裁判基準を示した。
- 問5 鎌倉時代において、源頼朝が設置した「守護」と比較した際の「地頭」の特徴として、その職務内容を具体的に説明したものとはどれか。（2016年 奈良県公立入試 類似）
- 国単位で配置され、大番催促などの軍事・警察権を掌握した
 - 朝廷の監視や西国の御家人の統制を目的として、京都に置かれた
 - 幕府の政務や財政、裁判などを担当する中央組織の長を務めた
 - 各荘園や公領に配置され、年貢の徴収や土地の管理を行った
- 問6 1192年に源頼朝が征夷大將軍に任命され、鎌倉幕府が本格的に始動した時期の出来事について述べた文として正しいものはどれですか。幕府が全国の荘園や公領に設置し、土地の管理や年貢の取り立てを行わせた役職名を含んだものを選びなさい。（2022年 徳島県公立入試 類似）
- 幕府は侍所を設置し、全国の公領における土地の測量と年貢の割り当てを行った。
 - 幕府は六波羅探題を設置し、西日本の荘園における年貢の徴収を直接指揮した。
 - 幕府は守護を設置し、全国の荘園ごとに年貢の取り立てを細かく管理させた。
 - 幕府は地頭を設置し、現地の土地管理や年貢の取り立て、治安維持を担わせた。
- 問7 鎌倉幕府が源頼朝の時代に全国に設置した役職のうち、国ごとに置かれ、主に軍事や警察の役割を担った役職を何というか。（2023年 岐阜県公立入試 類似）
- 地頭
 - 守護
 - 検非違使
 - 執権
- 問8 源頼朝が征夷大將軍となって幕府を開いた後、將軍が暗殺されるなど鎌倉幕府が混乱した時期がありました。この機に乗じて、1221年に後鳥羽上皇が幕府をたおすために兵をあげたものの、最終的に敗北した歴史的事件を何といいますか。（2019年 香川県公立入試 類似）
- 壬申の乱
 - 保元の乱
 - 平治の乱
 - 承久の乱
- 問9 源頼朝が征夷大將軍となってから（1192年）、鎌倉幕府が滅亡するまで（1333年）の期間に起こった出来事の組み合わせとして、歴史的背景が整合しているものを選びなさい。（2025年 愛媛県公立入試 類似）
- 聖徳太子による冠位十二階の制定と、北条氏による執権政治の確立
 - 織田信長による天下統一の推進と、後醍醐天皇による建武の新政
 - 後鳥羽上皇が倒幕を試みた承久の乱と、困窮した御家人を救うための永仁の徳政令
 - 平清盛が太政大臣となったことと、足利義満による南北朝の合一
- 問10 鎌倉時代に描かれた定期市の様子を伝える資料には、多くの人々が集まる市のなかで、踊りながら念仏を唱えて布教活動を行う僧侶の姿が見られます。この人物が、民衆の救済を目指して開いた宗派の名称を答えなさい。（2021年 香川県公立入試 類似）
- 時宗
 - 浄土宗
 - 臨済宗
 - 浄土真宗
- 問11 元寇後の社会情勢と鎌倉幕府の対応について説明した次の文章のうち、当時の状況を正しく述べているものはどれですか。（2019年 徳島県公立入試 類似）
- 北条氏に権力が集中する一方で、十分な恩賞を得られず困窮した御家人が領地を質入したため、幕府は借金の帳消しを命じたが、かえって経済の混乱を招いた。
 - 商業の発達により力を持った商人が御家人の領地を独占したため、幕府は座を廃止して自由な取引を認めたが、有力な寺社の強い反発を招いた。
 - 重い年貢の負担に苦しむ農民が各地で大規模な一揆を起こしたため、幕府は年貢の軽減を命じたが、これによって幕府の財政が急激に悪化し、滅亡の原因となった。
 - 参勤交代の負担によって生活が苦しくなった御家人の不満を抑えるため、幕府は江戸への滞在期間を短縮したが、諸大名の統制が困難になった。
- 問12 13世紀、モンゴル帝国（元）が日本へ侵攻してきた際、鎌倉幕府の執権であった北条時宗が、二度目の侵攻（弘安の役）に備えて博多湾の沿岸に行った具体的な対策として、最も適切なものはどれですか。（2022年 香川県公立入試 類似）
- 朝廷の権限を強め、全国の武士を朝廷の指揮下に置くことで団結を図った
 - 石積みや壁である防壁（石築地）を築き、敵の上陸を妨げる準備をした
 - 九州の御家人たちをすべて関東に呼び戻し、鎌倉の防衛を最優先した
 - 元との貿易をさらに拡大し、経済的なつながりを強めることで和睦を求めた
- 問13 北条泰時が定めた御成敗式目（貞永式目）の内容には、「たとえ土地の本来の持ち主が別にいたとしても、武士が20年の間その土地を実際に支配し続けているならば、その支配権を正式に認める」という規定があります。このような基準が設けられた歴史的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 秋田県公立入試 類似）
- 承久の乱の後、新たに任命された地頭と荘園領主との間で土地トラブルが頻発し、裁判の迅速な解決が求められたため。
 - 朝廷の権威を弱めるために、律令などの古い公家法を全面的に廃止し、全国に武家独自の土地制度を強制したため。
 - 貨幣経済が浸透し、土地を担保に借金をする武士が増えたため、彼らの生活を保護するために徳政令を出したため。
 - 元寇の際の恩賞が不足したため、武士が有力な農民の土地を強制的に奪うことを幕府が合法化しようとしたため。